

カンキツそうか病の有効薬剤の探索

そうか病に対して3薬剤で防除効果が高い

背景・目的

- そうか病は温州ミカンの重要病害で、ジチアノン水和剤が有効な剤として長く使用されてきています。
- 本剤以外の有効な防除剤があれば、薬剤選択に幅を持たせるとが出来るとともに、適正に使用することで感受性低下対策にもつながります。
- そこで、作用機構が異なるいくつかの薬剤のそうか病に対する防除効果の比較検討を行い有効な薬剤を選定しました。

成果の内容

- そうか病の防除剤として、ペンチオピラド水和剤、クレソキシムメチル水和剤、テブコナゾール・トリフロキシストロビン水和剤は、高い効果がみられます。

表1 果実のそうか病に対する防除効果

供試薬剤	希釈倍率 (倍)	反復	調査果数	程度別発病果数			発病果率 (%)	発病度	防除価	薬害	農薬の分類
				0	1	5					
①ペンチオピラド水和剤 (フルーツセイバー)	1500	I	100	92	7	1	7.0	3.5	85.2	-	SDHI
		II	100	97	1	2					
		III	100	92	4	4					
		IV	100	93	4	3					
		V	100	91	6	3					
		計	500	465	22	13					
②クレソキシムメチル水和剤 (ストロビードライフロアブル)	2000	I	100	98	2	0	2.8	1.7	92.9	-	QoI
		II	100	99	1	0					
		III	100	100	0	0					
		IV	100	91	3	6					
		V	100	98	1	1					
		計	500	486	7	7					
③オキシボコナゾールフマル 酸塩水和剤 (オーシャイン水和剤)	2000	I	100	75	11	14	14.2	8.9	62.1	-	DMI
		II	100	80	10	10					
		III	100	99	0	1					
		IV	100	84	6	10					
		V	100	91	6	3					
		計	500	429	33	38					
④テブコナゾール・トリフロキシス トロビン水和剤 (ナディーポフロアブル)	1500	I	100	97	3	0	5.6	2.4	89.8	-	DMI+QoI
		II	100	98	2	0					
		III	100	95	3	2					
		IV	100	89	9	2					
		V	100	93	3	4					
		計	500	472	20	8					
⑤ジチアノン水和剤 (デランフロアブル)	1000	I	100	99	0	1	4.2	2.8	88.3	-	キノン類
		II	100	99	1	0					
		III	100	95	3	2					
		IV	100	86	5	9					
		V	100	100	0	0					
		計	500	479	9	12					
⑥無処理	-	I	100	84	7	9	35.2	23.5	0	-	
		II	100	55	19	26					
		III	100	68	9	23					
		IV	100	58	20	22					
		V	100	59	18	23					
		計	500	324	73	103					

成果の活用方法(又は期待される効果)

- 温州ミカン栽培における防除薬剤の選択、栽培暦作成の参考となります。
- 普及対象地域・面積 温州ミカン栽培地域

留意点

- 薬剤散布は、発芽期(4/2)、落弁期(5/7)、幼果期(5/27)の3回、動力噴霧器で散布しました。